



F - Release

エフ・リリース
NPO 法人 ふじ環境倶楽部 情報誌
VOL. 15-6 2005. 2 月 発行

NPO 法人 ふじ環境倶楽部は、市民・企業・行政のパートナーシップを基本としながら、

- 富士地域の自然及び社会的資源の掘り起こし、磨き上げ
- 地域資源を活用したまちづくり計画の策定、まちづくり活動の実践
- 市民団体相互のネットワークの構築 等を通じて、市民がこの地域で誇りを持って働き、暮らしていける「資源循環・環境共生型のまちづくり」を目指して、楽しく、ゆっくり、着実に歩んでいます。(平成12年11月9日法人として設立)

◎セミナー「新しい協働の時代」

静岡県 NPO 推進室の溝口一級建築士のお誘いもあり、標記セミナーに参加してきました。

感想を一言で言うと「世の中すごい人がいるんだな」ということになります。

日時 平成17年2月17日(木) 10:00~16:15

場所 静岡音楽館AOI 7階講堂

主催 静岡県 NPO 推進室

講師 せんだい・みやぎNPOセンター 加藤哲夫 代表理事

1949年 福島県生まれ。広告代理店勤務を経て、1981年に出版社「カタツムリ社」を設立。1993年に HIV 薬害訴訟をサポートする「東北 HIV コミュニケーションズ」を設立。1997年に民間民営の NPO 支援センター「せんだい・みやぎ NPO センター」を設立し、1999年に NPO 法人化して代表理事を勤めている。NPO 法人「日本 NPO センター」理事も勤める。

著書：一夜でわかる！「NPO」のつくり方 他多数
1日15時間、364日働いて稼いでいる。全国で講演会・研修会を年間150回行っている。内70~80回が行政関係。

* 「せんだい・みやぎ NPO センター」の概要

事務所：仙台市青葉区 岡元ビル 4F(46 坪)

職員：20名

予算：1億5千万円/年間

内 容

●NPOその本質と可能性

従来は、行政セクターと企業セクターに対して、バラバラの市民がバラバラの対応をしていた。

これからの社会は、市民が行政セクターや企業セクターに対して直接参加・参画し、かつ NPO セクター (組織化された市民) がそれに関わっていく。

●協働って なに？

共通課題解決のために異質な特定の組織が互いにリソースを持ち寄り、共に汗を流して働くこと。

●協働を実感する参加者みんなによるワークショップ

「ご近所の底力」的ワークショップ

問題 → 原因 → 解決策 → ビジョン

ワークショップテーマ

1. 「犬の糞」問題
2. 「野良猫」問題
3. 「ごみの分別」問題
4. 「落書き」問題

ちなみに私のグループは「犬の糞」問題がテーマでした。

メンバー：静岡県生活文化部 増井さん

静岡県志田榛原健康福祉センター 石田さん

静岡県 NPO 推進室 溝口さん

蒲原町まちづくり課 佐藤さん

加藤講師は、今ある自分の出発点のひとつとして、「ある薬害問題で答弁した厚生省の課長は『今後このような薬害は絶対におこさないよう、厚生省の組織・対応を根本から見直します』と言っておきながら、退官後「みどり十字」に天下りし HIV の薬害問題を起こしている」ということがある。そんな行政の体質を打ち砕くための活動をしてきた。と言っているし、今回のセミナーでも行政の問題点をいくつも上げていた。

そんな人を講師として依頼している行政が年間70~80もあることも驚きであり、時代の変化も感じた次第です。(単純な私はそんな風に思いましたが、もっと深い訳があるのでしょうか？誰か教えて下さい)



・加藤講師は身長=175cm 体重=52kg (勝手な想像)の華奢な体格で、一見、1日15時間、年間364日働くパワフルさは感じられない方でした。(どこかの誰かもそうですが)